

2018 年度第 4 回支部集会【関東】開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会
開催日：2018 年 10 月 28 日（日）10:00～16:40
会場：文化外国語専門学校
参加者：83 名（会員 60 名・一般 23 名）

今年度の関東支部では、研究発表、交流ひろば、講演、賛助会員による書籍販売などのブース出展が実施されました。それらに加え、チャレンジ支援委員会による「発表応募支援セミナー」、調査研究推進委員会による「ワールドカフェ」も各委員会の協力により実施することができ、多彩な企画を開催することができました。関係者の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

研究発表は口頭、ポスター共に 1 本ずつではありましたが、どちらも有意義な発表内容で、質疑応答も活発に行われました。

交流ひろばには 11 本の出展があり、ボランティア教室、日本語学校、大学など多様な現場での取り組みが紹介され、意見交換やネットワーク作りが盛んに行われていました。出展者は関東各地はもとより、東北地方、中部地方からも集まり、参加者は様々な現場の取り組みを知ることができたものと思います。



交流ひろば

午後は、黒崎誠氏、黒崎亜美氏（ラボ日本語教育研修所）を講師に招き「アクティブラーニングを取り入れた授業実践」と題した講演が行われました。講演はグループワークを取り入れたワークショップ形式で進められ、アクティブラーニングの定義からはじまり、実践への応用方法の紹介、アクティブラーニングの体験へと段階を踏んで進められ、あっという間の 90 分でした。参加者からは「アクティブラーニングが体験できてよかった」「さっそく職場の授業に取り入れたい」といった声が聞かれ、どの参加者も今後へのヒントが得られたようでした。

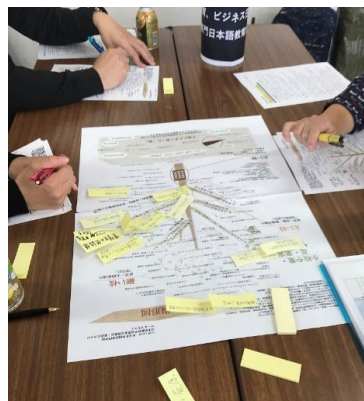
「発表応募支援セミナー」はまずは全体に向けて発表応募のためのポイントを解説し、その後は個別相談会を実施しました。個別にやり取りができるということで、相談者の皆さんはチャレンジ支援委員からの丁寧なアドバイスに聞きながら聞き入っていました（[詳細はチャレンジ支援委員会の報告参照](#)）。

「ワールドカフェ」は、砂川裕一委員がエブロン姿で進行役となり、参加者は各自昼食をとりながら、くつろいだ雰囲気、日本語教育の世界について語り合いました。テーマとしては「日本語教師養成・日本語教育研究」「留学生への学術的コミュニケーションとしての日本語教育」「高度人材育成のための日本語教育」「子どもの日本語教育」「日本国内の多文化共生のための

日本語教育」「海外における外交語としての日本語教育・日本語研究」「日本語教育政策・移民政策・日本語教育参照基準制定」などがありました。各テーマのグループで意見交換を行ったのち、他のテーマのグループに加わり情報交換を行い、さらに自分のテーマのグループに戻り、他テーマの情報を共有しました。参加者は多くのテーマについて様々な気づきがあったようで、アンケートでも大変好評でした（[詳細は調査研究推進委員会の報告参照](#)）。



チャレンジ支援委員会「発表応募支援セミナー」



ワールドカフェ



賛助会員出展ブース

アンケート結果によると、支部集会全体についてはおおむね好評ではありましたが、時間が重なるイベントがあったため、一方にしか参加できず残念だったとの指摘がありました。また、賛助会員のブースへの参加者が少なく、事前の広報と当日の案内を工夫する必要性を感じました。これらについては今後の課題としたいと思います。

最後に、チャレンジ支援委員会や調査研究推進委員会の協力を得て、今回の支部集会が開催できたことは今後に向けた一つの支部集会のモデル提示となったかと思えます。今後も各方面の方々の協力をいただきながら、支部活動の充実を図ってきたいと思います。

(報告者：支部活動委員 西村学)